

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	5年間（2015年2月19日～2020年2月18日）
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。
主要投資家	イ、ケイマン籍の外国投資信託「ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド（※1）」（以下「インカム・アロケーション・ファンド（※1）」といいます。）の受益証券（円建） ロ、ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券（※1）は、以下の各コースにおいて、次のように読み替えるものとします。 「為替ヘッジなしコース」の場合……ヘッジなし・クラス、「日本円コース」の場合……円ヘッジ・クラス、「ブラジル・レアル・コース」の場合……ブラジル・レアル・クラス、「通貨セレクト・コース」の場合……通貨セレクト・クラス
為替ヘッジなしコース	①主として、インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）の受益証券への投資を通じて、世界各国の高配当株式や債券など、さまざまな資産に投資を行ない、機動的に配分比率を調整することで、安定した利回りを追求するとともに、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。 ②当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
日本円コース	①主として、インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）の受益証券への投資を通じて、世界各国の高配当株式や債券など、さまざまな資産に投資を行ない、機動的に配分比率を調整することで、安定した利回りを追求するとともに、為替ヘッジを行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。 ②当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）では、「投資対象とする資産の通貨売り／米ドル買い」の為替取引を行ないません。その後、当該ファンドの純資産に対して、「米ドル売り／日本円買い」の為替取引を行ない、為替変動リスクの低減をめざします。
運用方法	①主として、インカム・アロケーション・ファンド（※1）の受益証券への投資を通じて、世界各国の高配当株式や債券など、さまざまな資産に投資を行ない、機動的に配分比率を調整することで、安定した利回りを追求するとともに、為替取引を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。（※1）は前述。 ②当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（※1）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、インカム・アロケーション・ファンド（※1）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③インカム・アロケーション・ファンド（※1）では、「投資対象とする資産の通貨売り／米ドル買い」の為替取引を行ないません。その後、当該ファンドの純資産に対して、「米ドル売り／（※2）買い」の為替取引を行ない、（※2）への投資成果の獲得をめざします。（※2）は、以下のコースにおいて、次のように読み替えるものとします。 「ブラジル・レアル・コース」……ブラジル・レアル、「通貨セレクト・コース」……選定通貨（投資対象とする外国投資信託の投資顧問会社が選定した複数の通貨をいいます。）
ブラジル・レアル・コース／通貨セレクト・コース	
組入制限	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

## 通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型）

為替ヘッジなしコース  
日本円コース  
ブラジル・レアル・コース  
通貨セレクト・コース

## 運用報告書（全体版）

第1期（決算日 2015年5月18日）  
第2期（決算日 2015年6月18日）  
第3期（決算日 2015年7月21日）  
第4期（決算日 2015年8月18日）

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型）」は、このたび、第4期の決算を行ないました。

ここに、第1期～第4期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<5655>

<5656>

<5657>

<5658>

★為替ヘッジなしコース

設定以来の運用実績

決 算 額	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 み 分 配 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末(2015年 5 月18日)	10,069	25	0.9	0.1	99.2	7,250
2 期末(2015年 6 月18日)	10,282	25	2.4	0.1	99.5	7,627
3 期末(2015年 7 月21日)	10,272	25	0.1	0.1	99.2	7,661
4 期末(2015年 8 月18日)	10,176	25	△ 0.7	0.1	99.3	8,573

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

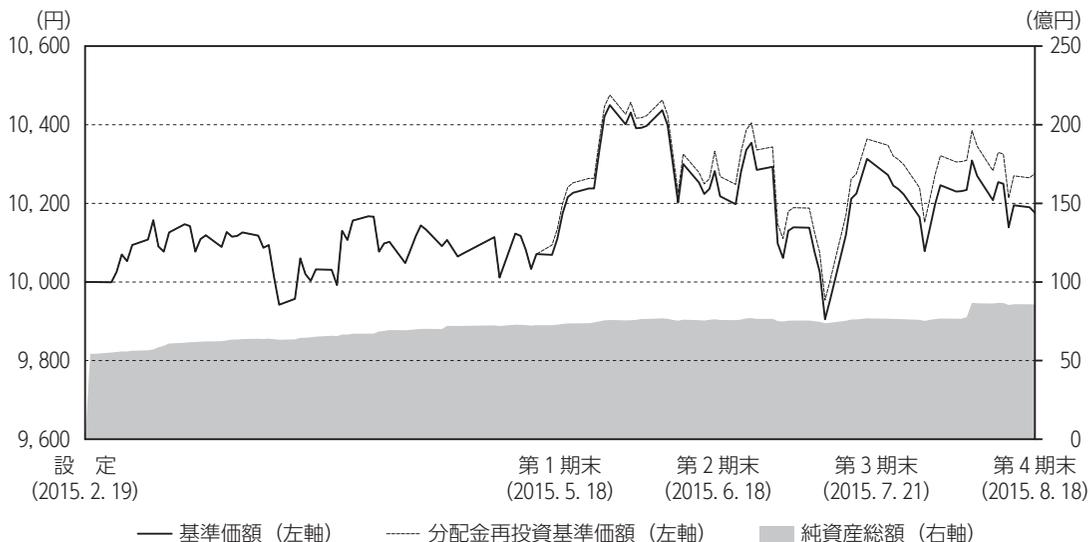
(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 《運用経過》

## 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。

## ■基準価額・騰落率

設定時：10,000円

第4期末：10,176円（既払分配金100円）

騰落率：2.8%（分配金再投資ベース）

## ■基準価額の主な変動要因

ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）（以下、「インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）」といいます。）で保有している株式などの下落によるマイナスを、為替相場が円安に振れたことによるプラスが上回り、基準価額は値上がりしました。

通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型） 為替ヘッジなしコース

	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		円	騰 落 率 %		
第 1 期	(設定) 2015年 2月19日	10,000	—	—	—
	2月末	10,094	0.9	0.1	98.0
	3月末	10,060	0.6	0.1	98.7
	4月末	10,065	0.7	0.1	99.0
	(期末) 2015年 5月18日	10,094	0.9	0.1	99.2
第 2 期	(期首) 2015年 5月18日	10,069	—	0.1	99.2
	5月末	10,450	3.8	0.1	99.3
	(期末) 2015年 6月18日	10,307	2.4	0.1	99.5
第 3 期	(期首) 2015年 6月18日	10,282	—	0.1	99.5
	6月末	10,098	△ 1.8	0.1	99.4
	(期末) 2015年 7月21日	10,297	0.1	0.1	99.2
第 4 期	(期首) 2015年 7月21日	10,272	—	0.1	99.2
	7月末	10,246	△ 0.3	0.1	99.4
	(期末) 2015年 8月18日	10,201	△ 0.7	0.1	99.3

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。(第1期は設定比。)

**投資環境**

## ○海外金融市況

当作成期間の金融市況は、各資産とも一進一退の展開になりました。米国株式市況は、米国の景気回復の持続を背景に上下に振れながらも底堅く推移しましたが、2015年6月下旬にギリシャに対する支援協議が停滞し、市場のリスク回避姿勢が強まると値動きが荒い展開となりました。その後、ギリシャが譲歩し支援協議が再開に向かったことから第4期末にかけて市場は落ち着きを取り戻しました。米国債券市況は、米国の利上げ時期をめぐる市場の思惑を背景に6月下旬にかけて軟調な推移となり、米国長期国債利回りは上昇（価格は下落）しました。6月下旬に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）で緩やかな利上げペースが示されたことが市場に安心感をもたらし、長期国債利回りは第4期末にかけて低下しました。非伝統的資産（※）はまちまちの展開となりましたが、利回り面の魅力などからノンエージェンシーMBSは堅調に推移しました。

（※）リート、優先出資証券、ノンエージェンシーMBS（政府関連機関の保証がつかないMBS）など。

## ○為替相場

外国為替相場では、米国の利上げ時期が近づきつつあることから米ドルが買われ、円安米ドル高に振れました。

**ポートフォリオについて**

## ○当ファンド

当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）への投資割合を高位に維持することをめざしました。

## ○インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）

世界各国のさまざまな資産への投資を行ない、機動的に各資産への配分を調整することで安定した利回りと、信託財産の着実な成長をめざしてポートフォリオを構築しました。

株式では、景気に対してディフェンシブな業績安定度の高いポートフォリオとしました。また、米国以外の株式では欧州株などに投資しました。加えて、カバードコール付き株式にも投資し、オプションプレミアムの獲得をめざしました。債券では、市場環境に合わせてデュレーションを調整するとともに、主にハイ・イールド債券に投資しました。非伝統的資産では、優先出資証券やノンエー

ジェンシーMBS、リートなどに投資しました。

### ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

第1期から第4期の1万口当り分配金（税込み）はそれぞれ25円といたしました。  
 収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。  
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
	2015年2月19日 ～2015年5月18日	2015年5月19日 ～2015年6月18日	2015年6月19日 ～2015年7月21日	2015年7月22日 ～2015年8月18日
当期分配金（税込み）（円）	25	25	25	25
対基準価額比率（％）	0.25	0.24	0.24	0.25
当期の収益（円）	25	25	25	25
当期の収益以外（円）	0	0	0	0
翌期繰越分配対象額（円）	69	282	272	282

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	84.96円	55.48円	38.76円	34.58円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	159.82	0.00	0.00
(c) 収益調整金	9.10	33.97	12.19	44.08
(d) 分配準備積立金	0.00	58.02	246.15	228.83
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	94.07	307.31	297.11	307.50
(f) 分配金	25.00	25.00	25.00	25.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	69.07	282.31	272.11	282.50

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

今後も、インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資します。インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ○インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス）

ポートフォリオの資産を保護しつつインカム収入をめざした運用を行なう方針です。具体的にはバリュエーション面での魅力度が高い資産への投資を上げるとともに、個別銘柄選定に際しては信用度を重視し、保有債券の残存期間を短めにしています。また、足元で株式市場のボラティリティが高水準になる中、オプションプレミアム収入を得られるカバードコール戦略にも注目しています。今後も各資産の配分を柔軟に調整することで、魅力的なインカムの獲得を追求します。

### ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

1万口当りの費用の明細

項 目	第 1 期～第 4 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 19～2015. 8. 18)		
	金 額	比 率	
信託報酬	61円	0. 599%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は10, 194円です。</b>
（投信会社）	(19)	(0. 186)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(41)	(0. 400)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0. 004	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	61	0. 603	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して 100 を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	買付		売付	
	□数	金額	□数	金額
外国 (邦貨建)	千口	千円	千口	千円
	85,896.837	8,622,750	1,299.648	131,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。  
 (注2) 金額は受渡し代金。  
 (注3) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	10,980	11,000	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄  
投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

第1期～				第4期			
買付		売付		買付		売付	
銘柄	□数	金額	平均単価	銘柄	□数	金額	平均単価
MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND NON- HEDGED CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円	MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND NON- HEDGED CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円
	83,926.39	8,425,000	100		1,299.648	131,000	100

(注1) 金額は受渡し代金。  
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 当ファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

当作成期間（第1期～第4期）中における利害関係人との取引はありません。

(3) 当作成期間中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期間（第1期～第4期）中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

(2) ダイワ・マネーアセット・マザーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

区分	第1期～第4期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況 D	D/C
公社債	百万円 19,099	百万円 1,000	% 5.2	百万円 —	百万円 —	% —
コール・ローン	563,977	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.1%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペーパーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期間における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 4 期 末		
	口 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND NON- HEDGED CLASS	84,597.189	8,513,353	99.3

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第 4 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	10,980	11,001

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年8月18日現在

項 目	第 4 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	8,513,353	99.0
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	11,001	0.1
コール・ローン等、その他	78,201	0.9
投資信託財産総額	8,602,556	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2015年5月18日)、(2015年6月18日)、(2015年7月21日)、(2015年8月18日)現在

項 目	第1期末	第2期末	第3期末	第4期末
<b>(A) 資産</b>	<b>7,290,694,386円</b>	<b>7,657,212,032円</b>	<b>7,689,078,827円</b>	<b>8,602,556,030円</b>
コール・ローン等	84,863,298	55,495,817	75,023,329	78,201,410
投資信託受益証券(評価額)	7,194,831,088	7,590,716,215	7,603,054,400	8,513,353,522
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド(評価額)	11,000,000	11,000,000	11,001,098	11,001,098
<b>(B) 負債</b>	<b>40,303,766</b>	<b>29,537,456</b>	<b>27,180,773</b>	<b>28,842,825</b>
未払収益分配金	18,001,637	18,545,609	18,647,323	21,064,503
未払解約金	3,045,278	3,071,100	—	—
未払信託報酬	19,129,358	7,741,658	8,299,053	7,493,979
その他未払費用	127,493	179,089	234,397	284,343
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>7,250,390,620</b>	<b>7,627,674,576</b>	<b>7,661,898,054</b>	<b>8,573,713,205</b>
元本	7,200,655,014	7,418,243,892	7,458,929,452	8,425,801,391
次期繰越損益金	49,735,606	209,430,684	202,968,602	147,911,814
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>7,200,655,014口</b>	<b>7,418,243,892口</b>	<b>7,458,929,452口</b>	<b>8,425,801,391口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	10,069円	10,282円	10,272円	10,176円

\*設定時における元本額は5,434,717,619円、当作成期間(第1期~第4期)中における追加設定元本額は3,122,893,534円、同解約元本額は131,809,762円です。

\*第4期末の計算口数当りの純資産額は10,176円です。

## ■損益の状況

第1期 自 2015年 2月19日 至 2015年 5月18日      第3期 自 2015年 6月19日 至 2015年 7月21日  
 第2期 自 2015年 5月19日 至 2015年 6月18日      第4期 自 2015年 7月22日 至 2015年 8月18日

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(A) 配当等収益	80,435,442円	43,040,760円	37,269,808円	36,682,325円
受取配当金	80,418,168	43,038,209	37,267,652	36,678,733
受取利息	17,274	2,551	2,156	3,592
(B) 有価証券売買損益	△ 10,857,314	135,301,135	△ 17,675,747	△ 85,285,250
売買益	8,569	135,817,866	263,055	254,628
売買損	△ 10,865,883	△ 516,731	△ 17,938,802	△ 85,539,878
(C) 信託報酬等	△ 19,256,851	△ 7,793,254	△ 8,354,361	△ 7,543,925
(D) 当期損益金 (A + B + C)	50,321,277	170,548,641	11,239,700	56,146,850
(E) 前期繰越損益金	—	32,220,505	183,604,918	175,231,000
(F) 追加信託差損益金	17,415,966	25,207,147	26,771,307	49,892,167
(配当等相当額)	( 2,724,416)	( 4,591,149)	( 6,310,414)	( 37,145,609)
(売買損益相当額)	( 14,691,550)	( 20,615,998)	( 20,460,893)	( 12,746,558)
(G) 合計 (D + E + F)	67,737,243	227,976,293	221,615,925	168,976,317
(H) 収益分配金	△ 18,001,637	△ 18,545,609	△ 18,647,323	△ 21,064,503
次期繰越損益金 (G + H)	49,735,606	209,430,684	202,968,602	147,911,814
追加信託差損益金	17,415,966	25,207,147	26,771,307	49,892,167
(配当等相当額)	( 2,724,416)	( 4,591,149)	( 6,310,414)	( 37,145,609)
(売買損益相当額)	( 14,691,550)	( 20,615,998)	( 20,460,893)	( 12,746,558)
分配準備積立金	43,177,517	184,223,537	193,873,249	200,884,105
繰越損益金	△ 10,857,877	—	△ 17,675,954	△ 102,864,458

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

## ■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	61,179,154円	41,160,490円	28,915,654円	29,138,591円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	118,563,580	0	0
(c) 収益調整金	6,558,089	25,207,147	9,095,353	37,145,609
(d) 分配準備積立金	0	43,045,076	183,604,918	192,810,017
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	67,737,243	227,976,293	221,615,925	259,094,217
(f) 分配金	18,001,637	18,545,609	18,647,323	21,064,503
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	49,735,606	209,430,684	202,968,602	238,029,714
(h) 受益権総口数	7,200,655,014口	7,418,243,892口	7,458,929,452口	8,425,801,391口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ				
1 万 口 当 り 分 配 金	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
	25円	25円	25円	25円
(単 価)	(10, 069円)	(10, 282円)	(10, 272円)	(10, 176円)

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、上記( )内の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

## ★日本円コース

## 設定以来の運用実績

決 算 額	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 み 分 配 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末(2015年 5 月18日)	9,993	25	0.2	0.1	99.2	1,387
2 期末(2015年 6 月18日)	9,811	25	△ 1.6	0.1	99.5	1,436
3 期末(2015年 7 月21日)	9,843	25	0.6	0.1	92.9	1,543
4 期末(2015年 8 月18日)	9,726	25	△ 0.9	0.1	98.7	1,503

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 《運用経過》

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。

### ■基準価額・騰落率

設定時：10,000円

第4期末：9,726円（既払分配金100円）

騰落率：△1.7%（分配金再投資ベース）

### ■基準価額の主な変動要因

ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）（以下、「インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）」といいます。）で保有している株式などの下落がマイナス要因となり、基準価額は値下がりました。

通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型） 日本円コース

	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		円	騰 落 率 %		
第 1 期	(設定) 2015年 2月19日	10,000	—	—	—
	2月末	10,049	0.5	0.1	97.5
	3月末	10,003	0.0	0.1	95.5
	4月末	10,069	0.7	0.1	99.2
	(期末) 2015年 5月18日	10,018	0.2	0.1	99.2
第 2 期	(期首) 2015年 5月18日	9,993	—	0.1	99.2
	5月末	10,005	0.1	0.1	99.4
	(期末) 2015年 6月18日	9,836	△ 1.6	0.1	99.5
第 3 期	(期首) 2015年 6月18日	9,811	—	0.1	99.5
	6月末	9,758	△ 0.5	0.1	99.5
	(期末) 2015年 7月21日	9,868	0.6	0.1	92.9
第 4 期	(期首) 2015年 7月21日	9,843	—	0.1	92.9
	7月末	9,795	△ 0.5	0.1	99.4
	(期末) 2015年 8月18日	9,751	△ 0.9	0.1	98.7

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。(第1期は設定比。)

## 投資環境

### ○海外金融市況

当作成期間の金融市況は、各資産とも一進一退の展開になりました。米国株式市況は、米国の景気回復の持続を背景に上下に振れながらも底堅く推移しましたが、2015年6月下旬にギリシャに対する支援協議が停滞し、市場のリスク回避姿勢が強まると値動きが荒い展開となりました。その後、ギリシャが譲歩し支援協議が再開に向かったことから第4期末にかけて市場は落ち着きを取り戻しました。米国債券市況は、米国の利上げ時期をめぐる市場の思惑を背景に6月下旬にかけて軟調な推移となり、米国長期国債利回りは上昇（価格は下落）しました。6月下旬に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）で緩やかな利上げペースが示されたことが市場に安心感をもたらし、長期国債利回りは第4期末にかけて低下しました。非伝統的資産（※）はまちまちの展開となりましたが、利回り面の魅力などからノンエージェンシーMBSは堅調に推移しました。

（※）リート、優先出資証券、ノンエージェンシーMBS（政府関連機関の保証がつかないMBS）など。

## ポートフォリオについて

### ○当ファンド

当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）への投資割合を高位に維持することをめざしました。

### ○インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）

世界各国のさまざまな資産への投資を行ない、機動的に各資産への配分を調整することで安定した利回りと、信託財産の着実な成長をめざしてポートフォリオを構築しました。

株式では、景気に対してディフェンシブな業績安定度の高いポートフォリオとしました。また、米国以外の株式では欧州株などに投資しました。加えて、カバードコール付き株式にも投資し、オプションプレミアムの獲得をめざしました。債券では、市場環境に合わせてデュレーションを調整するとともに、主にハイ・イールド債券に投資しました。非伝統的資産では、優先出資証券やノンエージェンシーMBS、リートなどに投資しました。

また、原資産通貨売り／円買いの為替取引を行ないました。

## ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

第1期から第4期の1万口当り分配金（税込み）はそれぞれ25円といたしました。収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

## ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
	2015年2月19日 ～2015年5月18日	2015年5月19日 ～2015年6月18日	2015年6月19日 ～2015年7月21日	2015年7月22日 ～2015年8月18日
当期分配金（税込み）（円）	25	25	25	25
対基準価額比率（%）	0.25	0.25	0.25	0.26
当期の収益（円）	25	25	25	25
当期の収益以外（円）	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額（円）	62	83	98	111

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	84.37円	45.45円	36.91円	37.66円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	3.44	7.30	15.62	16.46
(d) 分配準備積立金	0.00	56.07	70.77	82.10
(e) 当期分配対象額（a+b+c+d）	87.81	108.82	123.31	136.22
(f) 分配金	25.00	25.00	25.00	25.00
(g) 翌期繰越分配対象額（e-f）	62.81	83.82	98.31	111.22

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

今後も、インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資します。インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ○インカム・アロケーション・ファンド（円ヘッジ・クラス）

ポートフォリオの資産を保護しつつインカム収入をめざした運用を行なう方針です。具体的にはバリュエーション面での魅力度が高い資産への投資を上げるとともに、個別銘柄選定に際しては信用度を重視し、保有債券の残存期間を短めにしています。また、足元で株式市場のボラティリティが高水準になる中、オプションプレミアム収入を得られるカバードコール戦略にも注目しています。今後も各資産の配分を柔軟に調整することで、魅力的なインカムの獲得を追求します。

また、原資産通貨売り／円買いの為替取引を行ないます。

### ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

## 1 万口当りの費用の明細

項 目	第 1 期～第 4 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 19～2015. 8. 18)		
	金 額	比 率	
信託報酬	60円	0. 604%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は9, 885円です。</b>
（投信会社）	(19)	(0. 188)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(40)	(0. 403)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0. 004	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	60	0. 607	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	買付		売付	
	□数	金額	□数	金額
外国 (邦貨建)	千口	千円	千口	千円
	16,114.806	1,605,587	681.481	66,500

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。  
 (注2) 金額は受渡し代金。  
 (注3) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	1,696	1,700	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄  
投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

第1期～				第4期			
買付		売付		買付		売付	
銘柄	□数	金額	平均単価	銘柄	□数	金額	平均単価
MULTI-ASSETINCOME ALLOCATION FUND JPY HEDGED CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円	MULTI-ASSETINCOME ALLOCATION FUND JPY HEDGED CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円
	15,730.463	1,568,000	99		681.481	66,500	97

(注1) 金額は受渡し代金。  
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 当ファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

当作成期間（第1期～第4期）中における利害関係人との取引はありません。

(3) 当作成期間中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期間（第1期～第4期）中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

(2) ダイワ・マネーアセット・マザーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

区分	第1期～第4期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況 D	D/C
公社債	百万円 19,099	百万円 1,000	% 5.2	百万円 —	百万円 —	% —
コール・ローン	563,977	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.0%  
 ※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーフンドのマザーファンド所有口数の割合。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期間における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

## ■組入資産明細表

## (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 4 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND JPY HEDGED CLASS	15,433.325	1,483,188	98.7

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

## ■投資信託財産の構成

2015年8月18日現在

項 目	第 4 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	1,483,188	98.3
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	1,700	0.1
コール・ローン等、その他	23,922	1.6
投資信託財産総額	1,508,811	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## (2) 親投資信託残高

種 類	第 4 期 末	
	□ 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	1,696	1,700

(注) 単位未満は切捨て。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2015年5月18日)、(2015年6月18日)、(2015年7月21日)、(2015年8月18日)現在

項 目	第 1 期末	第 2 期末	第 3 期末	第 4 期末
<b>(A) 資産</b>	<b>1,394,535,219円</b>	<b>1,442,032,984円</b>	<b>1,548,767,523円</b>	<b>1,508,811,242円</b>
コール・ローン等	16,494,665	11,151,592	113,038,916	23,922,187
投資信託受益証券 (評価額)	1,376,340,554	1,429,181,392	1,434,028,437	1,483,188,885
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド (評価額)	1,700,000	1,700,000	1,700,170	1,700,170
<b>(B) 負債</b>	<b>7,026,302</b>	<b>5,152,629</b>	<b>5,538,844</b>	<b>5,330,105</b>
未払収益分配金	3,471,092	3,661,475	3,919,561	3,864,613
未払信託報酬	3,531,712	1,457,951	1,575,589	1,412,399
その他未払費用	23,498	33,203	43,694	53,093
<b>(C) 純資産総額 (A - B)</b>	<b>1,387,508,917</b>	<b>1,436,880,355</b>	<b>1,543,228,679</b>	<b>1,503,481,137</b>
元本	1,388,437,131	1,464,590,386	1,567,824,715	1,545,845,455
次期繰越損益金	△ 928,214	△ 27,710,031	△ 24,596,036	△ 42,364,318
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>1,388,437,131□</b>	<b>1,464,590,386□</b>	<b>1,567,824,715□</b>	<b>1,545,845,455□</b>
1万口当り基準価額 (C/D)	9,993円	9,811円	9,843円	9,726円

\* 設定時における元本額は860,280,595円、当作成期間（第1期～第4期）中における追加設定元本額は758,780,545円、同解約元本額は73,215,685円です。

\* 第4期末の計算口数当りの純資産額は9,726円です。

\* 第4期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は42,364,318円です。

■損益の状況

第1期 自 2015年 2月19日 至 2015年 5月18日  
 第2期 自 2015年 5月19日 至 2015年 6月18日  
 第3期 自 2015年 6月19日 至 2015年 7月21日  
 第4期 自 2015年 7月22日 至 2015年 8月18日

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(A) 配当等収益	15,269,642円	8,124,239円	6,885,985円	7,243,615円
受取配当金	15,266,250	8,123,673	6,885,518	7,242,930
受取利息	3,392	566	467	685
(B) 有価証券売買損益	△ 9,607,100	△ 29,271,903	3,053,391	△ 19,970,116
売買益	59,837	13,558	3,114,079	94,990
売買損	△ 9,666,937	△ 29,285,461	△ 60,688	△ 20,065,106
(C) 信託報酬等	△ 3,555,210	△ 1,467,656	△ 1,586,080	△ 1,421,798
(D) 当期損益金 (A + B + C)	2,107,332	△ 22,615,320	8,353,296	△ 14,148,299
(E) 前期繰越損益金	—	△ 1,358,564	△ 27,361,977	△ 22,446,830
(F) 追加信託差損益金	435,546	△ 74,672	△ 1,667,794	△ 1,904,576
(配当等相当額)	( 478,604)	( 1,070,043)	( 2,449,564)	( 2,545,034)
(売買損益相当額)	(△ 43,058)	(△ 1,144,715)	(△ 4,117,358)	(△ 4,449,610)
(G) 合計 (D + E + F)	2,542,878	△ 24,048,556	△ 20,676,475	△ 38,499,705
(H) 収益分配金	△ 3,471,092	△ 3,661,475	△ 3,919,561	△ 3,864,613
次期繰越損益金 (G + H)	△ 928,214	△ 27,710,031	△ 24,596,036	△ 42,364,318
追加信託差損益金	435,546	△ 74,672	△ 1,667,794	△ 1,904,576
(配当等相当額)	( 478,604)	( 1,070,043)	( 2,449,564)	( 2,545,034)
(売買損益相当額)	(△ 43,058)	(△ 1,144,715)	(△ 4,117,358)	(△ 4,449,610)
分配準備積立金	8,243,421	11,207,154	12,963,906	14,648,940
繰越損益金	△ 9,607,181	△ 38,842,513	△ 35,892,148	△ 55,108,682

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	11,714,513円	6,656,619円	5,787,179円	5,821,844円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0
(c) 収益調整金	478,604	1,070,043	2,449,564	2,545,034
(d) 分配準備積立金	0	8,212,010	11,096,288	12,691,709
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	12,193,117	15,938,672	19,333,031	21,058,587
(f) 分配金	3,471,092	3,661,475	3,919,561	3,864,613
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	8,722,025	12,277,197	15,413,470	17,193,974
(h) 受益権総口数	1,388,437,131口	1,464,590,386口	1,567,824,715口	1,545,845,455口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ				
1 万 口 当 り 分 配 金	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
	25円	25円	25円	25円
(単 価)	(9,993円)	(9,811円)	(9,843円)	(9,726円)

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、上記( )内の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

★ブラジル・リアル・コース

設定以来の運用実績

決 算 額	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 み 分 配 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末(2015年 5 月18日)	9,850	100	△ 0.5	0.1	99.3	6,580
2 期末(2015年 6 月18日)	9,709	100	△ 0.4	0.2	99.3	6,486
3 期末(2015年 7 月21日)	9,464	100	△ 1.5	0.1	99.2	6,295
4 期末(2015年 8 月18日)	8,655	100	△ 7.5	0.2	99.2	5,793

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

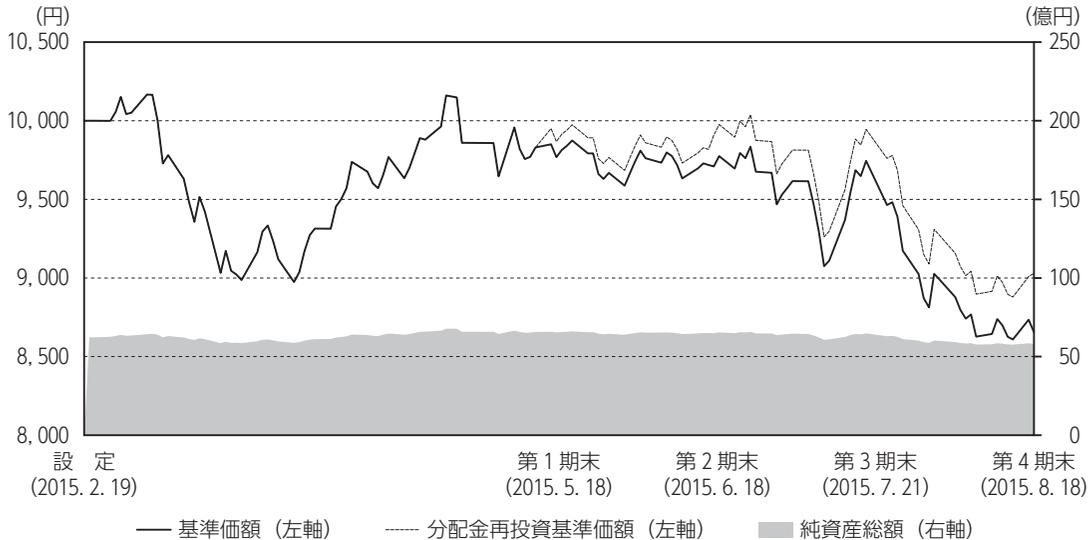
(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 《運用経過》

## 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。

## ■基準価額・騰落率

設定時：10,000円

第4期末：8,655円（既払分配金400円）

騰落率：△9.7%（分配金再投資ベース）

## ■基準価額の主な変動要因

ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）（以下、「インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」といいます。）で保有している株式などの下落に加えて、為替相場で円高ブラジル・リアル安に振れたことがマイナス要因となり、基準価額は値下がりしました。

通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型） ブラジル・リアル・コース

	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		円	騰 落 率 %		
第 1 期	(設定) 2015年 2月19日	10,000	—	—	—
	2月末	10,050	0.5	0.1	98.6
	3月末	9,037	△ 9.6	0.1	99.0
	4月末	10,148	1.5	0.1	99.3
	(期末) 2015年 5月18日	9,950	△ 0.5	0.1	99.3
第 2 期	(期首) 2015年 5月18日	9,850	—	0.1	99.3
	5月末	9,668	△ 1.8	0.1	99.3
	(期末) 2015年 6月18日	9,809	△ 0.4	0.2	99.3
第 3 期	(期首) 2015年 6月18日	9,709	—	0.2	99.3
	6月末	9,468	△ 2.5	0.1	99.0
	(期末) 2015年 7月21日	9,564	△ 1.5	0.1	99.2
第 4 期	(期首) 2015年 7月21日	9,464	—	0.1	99.2
	7月末	8,990	△ 5.0	0.1	99.4
	(期末) 2015年 8月18日	8,755	△ 7.5	0.2	99.2

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。(第1期は設定比。)

## 投資環境

## ○海外金融市況

当作成期間の金融市況は、各資産とも一進一退の展開になりました。米国株式市況は、米国の景気回復の持続を背景に上下に振れながらも底堅く推移しましたが、2015年6月下旬にギリシャに対する支援協議が停滞し、市場のリスク回避姿勢が強まると値動きが荒い展開となりました。その後、ギリシャが譲歩し支援協議が再開に向かったことから第4期末にかけて市場は落ち着きを取り戻しました。米国債券市況は、米国の利上げ時期をめぐる市場の思惑を背景に6月下旬にかけて軟調な推移となり、米国長期国債利回りは上昇（価格は下落）しました。6月下旬に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）で緩やかな利上げペースが示されたことが市場に安心感をもたらし、長期国債利回りは第4期末にかけて低下しました。非伝統的資産（※）はまちまちの展開となりましたが、利回り面の魅力などからノンエージェンシーMBSは堅調に推移しました。

（※）リート、優先出資証券、ノンエージェンシーMBS（政府関連機関の保証がつかないMBS）など。

## ○為替相場

ブラジル・リアルは、同国の景気停滞や大手石油会社の汚職事件の影響が長期化していることが嫌気されたことなどから下落し、円高ブラジル・リアル安になりました。

## ポートフォリオについて

## ○当ファンド

当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することをめざしました。

## ○インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）

世界各国のさまざまな資産への投資を行ない、機動的に各資産への配分を調整することで安定した利回りと、信託財産の着実な成長をめざしてポートフォリオを構築しました。

株式では、景気に対してディフェンシブな業績安定度の高いポートフォリオとしました。また、米国以外の株式では欧州株などに投資しました。加えて、カバードコール付き株式にも投資し、オプションプレミアムの獲得をめざしました。債券では、市場環境に合わせてデュレーションを調整するとともに、主にハイ・イールド債券に投資しました。非伝統的資産では、優先出資証券やノンエー

ジェンシーMBS、リートなどに投資しました。

また、原資産通貨売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ないました。

### ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

第1期から第4期の1万口当り分配金（税込み）はそれぞれ100円といたしました。

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

## ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
	2015年2月19日 ～2015年5月18日	2015年5月19日 ～2015年6月18日	2015年6月19日 ～2015年7月21日	2015年7月22日 ～2015年8月18日
当期分配金（税込み）（円）	100	100	100	100
対基準価額比率（%）	1.01	1.02	1.05	1.14
当期の収益（円）	100	100	100	100
当期の収益以外（円）	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額（円）	201	249	296	338

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	298.32円	147.07円	146.67円	142.08円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	3.11	6.21	7.94	10.46
(d) 分配準備積立金	0.00	196.03	241.47	286.18
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	301.43	349.33	396.09	438.73
(f) 分配金	100.00	100.00	100.00	100.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	201.43	249.33	296.09	338.73

(注) 下線を付した該当項目から分配金を計上しています。

## 《今後の運用方針》

## ○当ファンド

今後も、インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資します。インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

## ○インカム・アロケーション・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）

ポートフォリオの資産を保護しつつインカム収入をめざした運用を行なう方針です。具体的にはバリュエーション面での魅力度が高い資産への投資を上げるとともに、個別銘柄選定に際しては信用度を重視し、保有債券の残存期間を短めにしています。また、足元で株式市場のボラティリティが高水準になる中、オプションプレミアム収入を得られるカバードコール戦略にも注目しています。今後も各資産の配分を柔軟に調整することで、魅力的なインカムの獲得を追求します。

また、原資産通貨売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ないます。

## ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

1 万口当りの費用の明細

項 目	第 1 期～第 4 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 19～2015. 8. 18)		
	金 額	比 率	
信託報酬	57円	0. 605%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は9, 448円です。</b>
（投信会社）	(18)	(0. 188)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(38)	(0. 404)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0. 004	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	58	0. 609	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して 100 を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	買付		売付	
	□数	金額	□数	金額
外国 (邦貨建)	千口	千円	千口	千円
	72,981.013	7,217,613	3,963.908	358,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。  
 (注2) 金額は受渡し代金。  
 (注3) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	12,477	12,500	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄  
投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

第1期～第4期				第1期～第4期			
買付		売付		買付		売付	
銘柄	□数	金額	平均単価	銘柄	□数	金額	平均単価
MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND BRL CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円	MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND BRL CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円
	67,138.596	6,688,000	99		3,963.908	358,000	90

(注1) 金額は受渡し代金。  
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 当ファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

当作成期間（第1期～第4期）中における利害関係人との取引はありません。

(3) 当作成期間中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期間（第1期～第4期）中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

(2) ダイワ・マネーアセット・マザーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

区分	第1期～第4期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況 D	D/C
公社債	百万円 19,099	百万円 1,000	% 5.2	百万円 —	百万円 —	% —
コール・ローン	563,977	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.1%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペーパーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期間における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 4 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND BRL CLASS	69,017.105	5,747,675	99.2

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年8月18日現在

項 目	第 4 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	5,747,675	98.0
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	12,501	0.2
コール・ローン等、その他	105,898	1.8
投資信託財産総額	5,866,075	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第 4 期 末	
	□ 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	12,477	12,501

(注) 単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2015年5月18日)、(2015年6月18日)、(2015年7月21日)、(2015年8月18日)現在

項 目	第 1 期末	第 2 期末	第 3 期末	第 4 期末
<b>(A) 資産</b>	<b>6,665,928,043円</b>	<b>6,559,768,446円</b>	<b>6,368,749,791円</b>	<b>5,866,075,648円</b>
コール・ローン等	121,788,848	108,281,019	109,417,222	105,898,888
投資信託受益証券(評価額)	6,531,639,195	6,438,987,427	6,246,831,321	5,747,675,512
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド(評価額)	12,500,000	12,500,000	12,501,248	12,501,248
<b>(B) 負債</b>	<b>85,397,672</b>	<b>73,666,032</b>	<b>73,747,531</b>	<b>72,703,530</b>
未払収益分配金	66,810,197	66,803,495	66,513,692	66,936,393
未払信託報酬	18,464,421	6,694,867	7,019,388	5,515,927
その他未払費用	123,054	167,670	214,451	251,210
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>6,580,530,371</b>	<b>6,486,102,414</b>	<b>6,295,002,260</b>	<b>5,793,372,118</b>
元本	6,681,019,750	6,680,349,508	6,651,369,205	6,693,639,349
次期繰越損益金	△ 100,489,379	△ 194,247,094	△ 356,366,945	△ 900,267,231
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>6,681,019,750□</b>	<b>6,680,349,508□</b>	<b>6,651,369,205□</b>	<b>6,693,639,349□</b>
1万口当り基準価額(C/D)	9,850円	9,709円	9,464円	8,655円

\* 設定時における元本額は6,226,132,493円、当作成期間(第1期~第4期)中における追加設定元本額は641,476,054円、同解約元本額は173,969,198円です。

\* 第4期末の計算口数当りの純資産額は8,655円です。

\* 第4期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は900,267,231円です。

■損益の状況

第1期 自 2015年 2月19日 至 2015年 5月18日 第3期 自 2015年 6月19日 至 2015年 7月21日  
 第2期 自 2015年 5月19日 至 2015年 6月18日 第4期 自 2015年 7月22日 至 2015年 8月18日

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(A) 配当等収益	217,900,269円	104,993,716円	104,627,196円	100,657,122円
受取配当金	217,885,310	104,991,302	104,625,299	100,655,635
受取利息	14,959	2,414	1,897	1,487
(B) 有価証券売買損益	△ 220,232,466	△ 124,648,033	△ 193,935,735	△ 567,564,212
売買益	1,174,627	1,552,481	2,512,355	291,337
売買損	△ 221,407,093	△ 126,200,514	△ 196,448,090	△ 567,855,549
(C) 信託報酬等	△ 18,587,475	△ 6,739,483	△ 7,066,169	△ 5,552,686
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 20,919,672	△ 26,393,800	△ 96,374,708	△ 472,459,776
(E) 前期繰越損益金	—	△ 86,707,904	△ 177,911,261	△ 340,632,961
(F) 追加信託差損益金	△ 12,759,510	△ 14,341,895	△ 15,567,284	△ 20,238,101
(配当等相当額)	( 2,079,208)	( 4,153,406)	( 5,284,230)	( 7,002,584)
(売買損益相当額)	(△ 14,838,718)	(△ 18,495,301)	(△ 20,851,514)	(△ 27,240,685)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 33,679,182	△ 127,443,599	△ 289,853,253	△ 833,330,838
(H) 収益分配金	△ 66,810,197	△ 66,803,495	△ 66,513,692	△ 66,936,393
次期繰越損益金 (G + H)	△ 100,489,379	△ 194,247,094	△ 356,366,945	△ 900,267,231
追加信託差損益金	△ 12,759,510	△ 14,341,895	△ 15,567,284	△ 20,238,101
(配当等相当額)	( 2,079,208)	( 4,153,406)	( 5,284,230)	( 7,002,584)
(売買損益相当額)	(△ 14,838,718)	(△ 18,495,301)	(△ 20,851,514)	(△ 27,240,685)
分配準備積立金	132,503,238	162,410,721	191,658,248	219,732,759
繰越損益金	△ 220,233,107	△ 342,315,920	△ 532,457,909	△ 1,099,761,889

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	199,313,435円	98,254,507円	97,561,260円	95,104,653円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0
(c) 収益調整金	2,079,208	4,153,406	5,284,230	7,002,584
(d) 分配準備積立金	0	130,959,709	160,610,680	191,564,499
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	201,392,643	233,367,622	263,456,170	293,671,736
(f) 分配金	66,810,197	66,803,495	66,513,692	66,936,393
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	134,582,446	166,564,127	196,942,478	226,735,343
(h) 受益権総口数	6,681,019,750□	6,680,349,508□	6,651,369,205□	6,693,639,349□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ				
1 万 口 当 り 分 配 金	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
		100円	100円	100円
(単 価)	(9,850円)	(9,709円)	(9,464円)	(8,655円)

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、上記( )内の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

## ★通貨セレクト・コース

## 設定以来の運用実績

決 算 額	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 み 分 配 金	期 中 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
1 期末(2015年 5 月18日)	9,916	80	△ 0.0	0.1	99.3	2,730
2 期末(2015年 6 月18日)	9,737	80	△ 1.0	0.1	99.2	2,734
3 期末(2015年 7 月21日)	9,731	80	0.8	0.1	99.3	2,746
4 期末(2015年 8 月18日)	9,054	80	△ 6.1	0.1	98.9	2,573

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

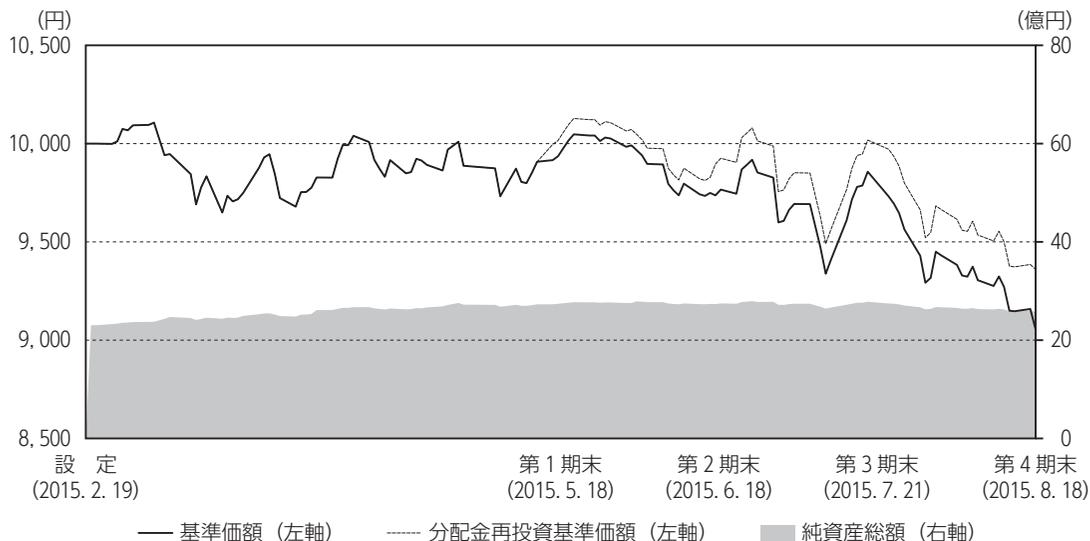
(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 《運用経過》

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。

### ■基準価額・騰落率

設定時：10,000円

第4期末：9,054円（既払分配金320円）

騰落率：△6.4%（分配金再投資ベース）

### ■基準価額の主な変動要因

ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）（以下、「インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）」といいます。）で保有している株式などの下落に加えて、為替相場で選定通貨が下落したことがマイナス要因となり、基準価額は値下がりしました。

通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型） 通貨セレクト・コース

	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		円	騰 落 率 %		
第 1 期	(設定) 2015年 2月19日	10,000	—	—	—
	2月末	10,093	0.9	0.1	98.3
	3月末	9,753	△ 2.5	0.1	98.4
	4月末	10,010	0.1	0.1	98.3
	(期末) 2015年 5月18日	9,996	△ 0.0	0.1	99.3
第 2 期	(期首) 2015年 5月18日	9,916	—	0.1	99.3
	5月末	10,026	1.1	0.1	99.2
	(期末) 2015年 6月18日	9,817	△ 1.0	0.1	99.2
第 3 期	(期首) 2015年 6月18日	9,737	—	0.1	99.2
	6月末	9,599	△ 1.4	0.1	99.1
	(期末) 2015年 7月21日	9,811	0.8	0.1	99.3
第 4 期	(期首) 2015年 7月21日	9,731	—	0.1	99.3
	7月末	9,432	△ 3.1	0.1	99.3
	(期末) 2015年 8月18日	9,134	△ 6.1	0.1	98.9

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。(第1期は設定比。)

**投資環境**

## ○海外金融市況

当作成期間の金融市況は、各資産とも一進一退の展開になりました。米国株式市況は、米国の景気回復の持続を背景に上下に振れながらも底堅く推移しましたが、2015年6月下旬にギリシャに対する支援協議が停滞し、市場のリスク回避姿勢が強まると値動きが荒い展開となりました。その後、ギリシャが譲歩し支援協議が再開に向かったことから第4期末にかけて市場は落ち着きを取り戻しました。米国債券市況は、米国の利上げ時期をめぐる市場の思惑を背景に6月下旬にかけて軟調な推移となり、米国長期国債利回りは上昇（価格は下落）しました。6月下旬に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）で緩やかな利上げペースが示されたことが市場に安心感をもたらし、長期国債利回りは第4期末にかけて低下しました。非伝統的資産（※）はまちまちの展開となりましたが、利回り面の魅力などからノンエージェンシーMBSは堅調に推移しました。

（※）リート、優先出資証券、ノンエージェンシーMBS（政府関連機関の保証がつかないMBS）など。

## ○為替相場

為替相場は、設定時から2015年5月末にかけては、米国の利上げ時期をめぐる思惑から、選定通貨（※）は上下に振れる展開となりました。中でも、トルコ・リラは6月の総選挙を前に政治的不透明感が高まったことから、また、ブラジル・レアルは大手石油会社の汚職事件が嫌気されたことなどから、それぞれ対円で下落しました。一方で、利下げ観測が後退した豪ドルや比較的落ち着いた値動きとなったインドネシア・ルピアは、対円で上昇しました。6月に入ると、ギリシャと国際債権団の支援協議が難航し市場のリスク回避姿勢が強まる中、安全通貨としての円買いが加速したことで、選定通貨は対円でおおむね下落しました。7月以降も、中国株式市況や商品価格の下落に加え、中国の人民元切下げをきっかけに中国や新興国の景気減速懸念が高まったことで、選定通貨は対円でおおむね下落しました。

当作成期間においては、ニュージーランド・ドル、南アフリカ・ランド、ブラジル・レアル、トルコ・リラ、豪ドル、メキシコ・ペソ、インドネシア・ルピア、インド・ルピー、ロシア・ルーブルの選定通貨は対円で総じて下落しました。

（※）選定通貨とは、通貨の選定方針により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

## ポートフォリオについて

### ○当ファンド

当ファンドは、インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することをめざしました。

### ○インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）

世界各国のさまざまな資産への投資を行ない、機動的に各資産への配分を調整することで安定した利回りと、信託財産の着実な成長をめざしてポートフォリオを構築しました。

株式では、景気に対してディフェンシブな業績安定度の高いポートフォリオとしました。また、米国以外の株式では欧州株などに投資しました。加えて、カバードコール付き株式にも投資し、オプションプレミアムの獲得をめざしました。債券では、市場環境に合わせてデュレーションを調整するとともに、主にハイ・イールド債券に投資しました。非伝統的資産では、優先出資証券やノンエージェンシーMBS、リートなどに投資しました。

また、原資産通貨売り／選定通貨買いの為替取引を行ないました。取引対象通貨においては、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を勘案し、中長期的な視点から安定したキャリー収益が享受できる通貨を毎月6通貨選定し、運用を行ないました。また、取引対象通貨合計の比率は、原資産に対しておおむね100%を維持しました。

### ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

第1期から第4期の1万口当り分配金（税込み）はそれぞれ80円といたしました。  
 収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。  
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
	2015年2月19日 ～2015年5月18日	2015年5月19日 ～2015年6月18日	2015年6月19日 ～2015年7月21日	2015年7月22日 ～2015年8月18日
当期分配金（税込み）（円）	80	80	80	80
対基準価額比率（％）	0.80	0.81	0.82	0.88
当期の収益（円）	80	80	80	80
当期の収益以外（円）	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額（円）	138	187	222	252

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	215.00円	128.30円	114.79円	109.85円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	3.90	7.17	9.22	11.13
(d) 分配準備積立金	0.00	132.12	178.53	211.86
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	218.90	267.59	302.55	332.85
(f) 分配金	80.00	80.00	80.00	80.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	138.90	187.59	222.55	252.85

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

今後も、インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドへ投資します。インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ○インカム・アロケーション・ファンド（通貨セレクト・クラス）

ポートフォリオの資産を保護しつつインカム収入をめざした運用を行なう方針です。具体的にはバリュエーション面での魅力度が高い資産への投資を上げるとともに、個別銘柄選定に際しては信用度を重視し、保有債券の残存期間を短めにしています。また、足元で株式市場のボラティリティが高水準になる中、オプションプレミアム収入を得られるカバードコール戦略にも注目しています。今後も各資産の配分を柔軟に調整することで、魅力的なインカムの獲得を追求します。

また、原資産通貨売り／選定通貨買いの為替取引を行ないます。

### ○ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第1期～第4期		項 目 の 概 要
	(2015.2.19～2015.8.18)		
	金 額	比 率	
信託報酬	59円	0.605%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は9,710円です。</b>
（投信会社）	(18)	(0.188)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(39)	(0.404)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	0	0.004	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	59	0.609	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	買付		売付	
	□数	金額	□数	金額
外国 (邦貨建)	千口	千円	千口	千円
	29,987.8	2,978,948	1,092.81	102,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。  
 (注2) 金額は受渡し代金。  
 (注3) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

決算期	第1期～第4期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	4,591	4,600	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄  
投資信託受益証券

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

第1期～第4期				第1期～第4期			
買付		売付		買付		売付	
銘柄	□数	金額	平均単価	銘柄	□数	金額	平均単価
MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND CURRENCY SELECTION CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円	MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND CURRENCY SELECTION CLASS (ケイマン諸島)	千口	千円	円
	28,133.011	2,804,000	99		1,092.81	102,000	93

(注1) 金額は受渡し代金。  
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 当ファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

当作成期間（第1期～第4期）中における利害関係人との取引はありません。

(3) 当作成期間中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期間（第1期～第4期）中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

(2) ダイワ・マネーアセット・マザーファンドにおける当作成期間中の利害関係人との取引状況

(2015年2月19日から2015年8月18日まで)

区分	第1期～第4期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況 D	D/C
公社債	百万円 19,099	百万円 1,000	% 5.2	百万円 —	百万円 —	% —
コール・ローン	563,977	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペーパーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期間における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 4 期 末		
	口 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) MULTI-ASSET INCOME ALLOCATION FUND CURRENCY SELECTION CLASS	28,894.99	2,544,521	98.9

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年8月18日現在

項 目	第 4 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	2,544,521	97.9
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	4,600	0.2
コール・ローン等、その他	49,245	1.9
投資信託財産総額	2,598,367	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第 4 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	4,591	4,600

(注) 単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2015年5月18日)、(2015年6月18日)、(2015年7月21日)、(2015年8月18日)現在

項 目	第 1 期末	第 2 期末	第 3 期末	第 4 期末
<b>(A) 資産</b>	<b>2,760,417,318円</b>	<b>2,760,907,677円</b>	<b>2,772,138,835円</b>	<b>2,598,367,583円</b>
コール・ローン等	44,238,302	41,995,293	40,539,326	49,245,391
投資信託受益証券 (評価額)	2,711,579,016	2,714,312,384	2,726,999,050	2,544,521,733
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド (評価額)	4,600,000	4,600,000	4,600,459	4,600,459
<b>(B) 負債</b>	<b>29,579,769</b>	<b>25,967,223</b>	<b>25,670,525</b>	<b>25,306,226</b>
未払収益分配金	22,031,710	22,471,136	22,578,632	22,734,738
未払解約金	—	588,403	—	—
未払信託報酬	7,498,118	2,838,834	3,003,041	2,466,210
その他未払費用	49,941	68,850	88,852	105,278
<b>(C) 純資産総額 (A - B)</b>	<b>2,730,837,549</b>	<b>2,734,940,454</b>	<b>2,746,468,310</b>	<b>2,573,061,357</b>
元本	2,753,963,754	2,808,892,082	2,822,329,094	2,841,842,327
次期繰越損益金	△ 23,126,205	△ 73,951,628	△ 75,860,784	△ 268,780,970
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>2,753,963,754口</b>	<b>2,808,892,082口</b>	<b>2,822,329,094口</b>	<b>2,841,842,327口</b>
1万口当り基準価額 (C/D)	9,916円	9,737円	9,731円	9,054円

\* 設定時における元本額は2,304,423,202円、当作成期間（第1期～第4期）中における追加設定元本額は565,042,927円、同解約元本額は27,623,802円です。

\* 第4期末の計算口数当りの純資産額は9,054円です。

\* 第4期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は268,780,970円です。

■損益の状況

第1期 自 2015年 2月19日 至 2015年 5月18日      第3期 自 2015年 6月19日 至 2015年 7月21日  
 第2期 自 2015年 5月19日 至 2015年 6月18日      第4期 自 2015年 7月22日 至 2015年 8月18日

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(A) 配当等収益	66,758,348円	38,897,402円	35,421,295円	33,700,718円
受取配当金	66,751,785	38,896,474	35,420,457	33,700,050
受取利息	6,563	928	838	668
(B) 有価証券売買損益	△ 56,055,869	△ 64,168,989	△ 11,525,682	△ 200,177,367
売買益	145,738	59,596	332,430	1
売買損	△ 56,201,607	△ 64,228,585	△ 11,858,112	△ 200,177,368
(C) 信託報酬等	△ 7,548,059	△ 2,857,743	△ 3,023,043	△ 2,482,636
(D) 当期損益金 (A + B + C)	△ 3,154,420	△ 28,129,330	△ 20,872,570	△ 168,959,285
(E) 前期繰越損益金	—	△ 18,843,272	△ 69,044,659	△ 70,750,721
(F) 追加信託差損益金	△ 4,248,915	△ 4,507,890	△ 5,110,063	△ 6,336,226
(配当等相当額)	( 1,075,738)	( 2,014,374)	( 2,603,959)	( 3,164,709)
(売買損益相当額)	(△ 5,324,653)	(△ 6,522,264)	(△ 7,714,022)	(△ 9,500,935)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 1,094,495	△ 51,480,492	△ 53,282,152	△ 246,046,232
(H) 収益分配金	△ 22,031,710	△ 22,471,136	△ 22,578,632	△ 22,734,738
次期繰越損益金 (G + H)	△ 23,126,205	△ 73,951,628	△ 75,860,784	△ 268,780,970
追加信託差損益金	△ 4,248,915	△ 4,507,890	△ 5,110,063	△ 6,336,226
(配当等相当額)	( 1,075,738)	( 2,014,374)	( 2,603,959)	( 3,164,709)
(売買損益相当額)	(△ 5,324,653)	(△ 6,522,264)	(△ 7,714,022)	(△ 9,500,935)
分配準備積立金	37,178,811	50,680,434	60,208,889	68,692,311
繰越損益金	△ 56,056,101	△ 120,124,172	△ 130,959,610	△ 331,137,055

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期
(a) 経費控除後の配当等収益	59,210,521円	36,039,759円	32,398,337円	31,218,160円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0
(c) 収益調整金	1,075,738	2,014,374	2,603,959	3,164,709
(d) 分配準備積立金	0	37,111,811	50,389,184	60,208,889
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	60,286,259	75,165,944	85,391,480	94,591,758
(f) 分配金	22,031,710	22,471,136	22,578,632	22,734,738
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	38,254,549	52,694,808	62,812,848	71,857,020
(h) 受益権総口数	2,753,963,754口	2,808,892,082口	2,822,329,094口	2,841,842,327口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ				
1 万 口 当 り 分 配 金	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
		80円	80円	80円
(単 価)	(9,916円)	(9,737円)	(9,731円)	(9,054円)

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、上記( )内の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

**ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド**  
**（ヘッジなし・クラス／円ヘッジ・クラス／**  
**ブラジル・リアル・クラス／通貨セレクト・クラス）**

当ファンド（通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型））の主要投資対象であるケイマン籍の外国投資信託「ダイワ・プレミアム・トラスト・マルチアセット・インカム・アロケーション・ファンド（ヘッジなし・クラス／円ヘッジ・クラス／ブラジル・リアル・クラス／通貨セレクト・クラス）」は、2015年7月31日に第1期決算を行なっておりますが、2015年8月18日現在では決算情報を入手できておりません。

## ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

### <補足情報>

当ファンド（通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター（毎月分配型））が投資対象としている「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の決算日（2014年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの第4期の決算日（2015年8月18日）現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンドの組入資産の内容等を47ページに併せて掲載いたしました。

### ■ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの主要な売買銘柄 公 社 債

（2015年2月19日から2015年8月18日まで）

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
491 国庫短期証券 2015/5/14	1,999,998		
540 国庫短期証券 2015/9/24	1,699,999		
541 国庫短期証券 2015/9/28	1,499,998		
532 国庫短期証券 2015/8/17	1,499,995		
514 国庫短期証券 2015/5/25	1,499,968		
521 国庫短期証券 2015/6/29	1,499,925		
536 国庫短期証券 2015/9/7	1,000,000		
548 国庫短期証券 2015/11/2	1,000,000		
534 国庫短期証券 2015/8/24	999,997		
515 国庫短期証券 2015/6/1	999,995		

（注1）金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

（注2）単位未満は切捨て。

### ■組入資産明細表

下記は、2015年8月18日現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンド（10,067,386千円）の内容です。

#### (1)国内（邦貨建）公社債（種類別）

区 分	2015年8月18日現在						
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	う ち B B 格 以 下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 7,600,000	千円 7,599,996	%	%	%	%	%
			75.3	—	—	—	75.3

（注1）組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

（注2）額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

#### (2)国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

2015年8月18日現在						
区 分	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券	534 国庫短期証券	—	千円 1,000,000	千円 999,999	2015/08/24	
	535 国庫短期証券	—	1,000,000	999,998	2015/08/31	
	536 国庫短期証券	—	1,000,000	1,000,000	2015/09/07	
	540 国庫短期証券	—	1,700,000	1,699,999	2015/09/24	
	541 国庫短期証券	—	1,500,000	1,499,999	2015/09/28	
	548 国庫短期証券	—	1,000,000	1,000,000	2015/11/02	
	550 国庫短期証券	—	400,000	400,000	2015/11/09	
合 計	銘 柄 数	7銘柄				
	金 額		7,600,000	7,599,996		

（注）単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

## 運用報告書 第3期 (決算日 2014年12月9日)

(計算期間 2013年12月10日～2014年12月9日)

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの第3期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組入比率
	円	騰 落 率 %	
(期首)2013年12月9日	10,013	—	64.6
12月末	10,013	0.0	66.4
2014年1月末	10,014	0.0	76.5
2月末	10,014	0.0	77.7
3月末	10,015	0.0	70.6
4月末	10,015	0.0	72.5
5月末	10,015	0.0	77.2
6月末	10,016	0.0	66.1
7月末	10,016	0.0	76.4
8月末	10,017	0.0	80.2
9月末	10,017	0.0	66.3
10月末	10,017	0.0	66.6
11月末	10,017	0.0	85.2
(期末)2014年12月9日	10,017	0.0	53.3

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,013円 期末：10,017円 騰落率：0.0%

【基準価額の主な変動要因】

利息収入により、基準価額は値上がりしました。

◆投資環境について

期を通じて、日銀は金融市場調節の操作目標をマネタリーベースとする量的・質的金融緩和政策を維持しました。また、2014年10月末には追加金融緩和を実施し、長期国債を中心とする資産買い入れを一層拡大しました。このような日銀の金融政策を背景に、短期金融市場ではおおむね低位での金利水準が続き、無担保コール翌日物金利は0.06%台を中心に推移しました。国庫短期証券(3カ月物)の利回りは0.06%程度で始まりましたが、日銀の買い入れによる需給ひっ迫等を背景に、△0.01%程度まで低下して期末を迎えました。

◆前期における「今後の運用方針」

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なっております。

◆ポートフォリオについて

短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産による安定運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

引続き、資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なっております。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用	—
合 計	—

(注) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2013年12月10日から2014年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
国 内	国 債 証 券	千円	千円
		21,368,540	( 19,920,000)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2013年12月10日から2014年12月9日まで)

当 期		期 末	
買 付	金 額	売 付	金 額
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
496 国庫短期証券 2015/3/9	2,999,997		
486 国庫短期証券 2014/12/3	1,999,974		
476 国庫短期証券 2014/12/1	1,799,916		
490 国庫短期証券 2015/2/9	999,950		
492 国庫短期証券 2015/2/16	999,945		
493 国庫短期証券 2015/2/23	799,984		
473 国庫短期証券 2014/11/17	799,952		
475 国庫短期証券 2014/11/25	799,936		
454 国庫短期証券 2014/8/25	799,922		
434 国庫短期証券 2014/6/2	799,920		

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内(邦貨建) 公社債(種類別)

作成期	当 期		期 末				
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
区 分	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	6,340,000	6,339,912	53.3	—	—	—	53.3

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2) 国内(邦貨建) 公社債(銘柄別)

区 分	当 期		期 末		
	銘 柄	年利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	479 国庫短期証券	—	千円 340,000	千円 339,999	2014/12/15
	481 国庫短期証券	—	200,000	199,999	2014/12/22
	490 国庫短期証券	—	1,000,000	999,965	2015/02/09
	492 国庫短期証券	—	1,000,000	999,961	2015/02/16
	493 国庫短期証券	—	800,000	799,988	2015/02/23
	496 国庫短期証券	—	3,000,000	2,999,997	2015/03/09
	合計	銘柄数 金 額	6銘柄	6,340,000	6,339,912

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2014年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	6,339,912	53.3
コール・ローン等、その他	5,565,721	46.7
投資信託財産総額	11,905,634	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2014年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	11,905,634,225円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	5,565,721,829
公 社 債 (評価額)	6,339,912,396
(B) 負 債	—
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	11,905,634,225
元 本	11,884,993,463
次 期 繰 越 損 益 金	20,640,762
(D) 受 益 権 総 口 数	11,884,993,463口
1万口当り基準価額(C/D)	10,017円

\*期首における元本額は7,555,798,942円、当期中における追加設定元本額は7,270,665,044円、同解約元本額は2,941,470,523円です。

\*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ・グローバル高利回りC BファンドⅡ 為替ヘッジあり4,998,495円、ダイワ・グローバル高利回りC BファンドⅡ 為替ヘッジなし2,499,247円、ダイワ・グローバル・ハイブリッド証券ファンドⅡ (為替ヘッジあり) 999円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(年1回決算型) 4,995円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(年1回決算型) 4,995円、世界ハイブリッド証券ファンド2014-04 (為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、世界ハイブリッド証券ファンド2014-07 (為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、世界ハイブリッド証券ファンド2014-10 (為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、ダイワ・オーストラリア高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ 48,492,145円、ダイワ・スイス高配当株ツインa (毎月分配型) 2,996,106円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(毎月分配型) 29,988,005円、ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(毎月分配型) 1,999,201円、通貨選択型ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 日本円コース(毎月分配型) 1,002,195円、通貨選択型ダイワ/N B・米国債券戦略ファンド 通貨セレクトコース(毎月分配型) 3,011,774円、ダイワ新興国ハイインカム・プラス -インカムチェンジ(積立型) - 7,515,709円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド(限定追加型) - シフト11 - 4,694,526,114円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド(限定追加型) - シフト12 - 7,087,950,486円です。

\*当期末の計算口数当りの純資産額は10,017円です。

■損益の状況

当期 自2013年12月10日 至2014年12月9日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	2,880,333円
受 取 利 息	2,880,333
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	1,353
売 買 益	1,353
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	2,881,686
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	9,949,597
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 4,529,477
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	12,338,956
(G) 合 計 (C + D + E + F)	20,640,762
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	20,640,762

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

《お知らせ》

●書面決議手続きの改正について

重大な約款変更や繰上償還の際に行なう書面決議について、2014年12月1日施行の法改正により以下の点が変更されたことに伴い、信託約款の該当箇所の変更を行ないました。

- ・書面決議の可決要件が、「受益者の半数以上の賛成かつ受益者の保有する議決権の3分の2以上の賛成を得ること」から「受益者の保有する議決権の3分の2以上の賛成を得ること」に変更されました。
- ・投資信託の併合を行なう際、すべての場合で書面決議が必要とされてきましたが、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものであるときは、当該併合に関する書面決議が不要となりました。
- ・書面決議に反対した受益者による受益権買取請求の規定について、一部解約請求に応じる投資信託（当ファンドは該当します。）には適用されなくなりました。